

令和3年度高山市予算 「地域・経済再生型予算」の中身とは？

新規拡充事業：自主財源の減少が見込まれる中、どんな事業に力を入れるのか？

第八次総合計画に掲げるまちづくりの方向性とまちづくり戦略の着実な推進が基本。ウィズコロナ社会における適応戦略(感染の防止、生活の維持、経済の回復)と、コロナ収束後、さらには10年・20年後を見据えた、先進技術の導入促進、移住促進や関係人口の創出、デジタル化による行政サービスの向上(DX：デジタルトランスフォーメーション)など中長期の視点による成長戦略に重点配分をした令和3年度一般会計予算が提出されました。

予算総額は昨年度対比で14億円の増であるが、災害復旧費に17億円の他、土地開発基金の土地買戻しなど臨時的な支出を差し引くと前年度より数億円の減となる状況。一般会計歳入は、市税(市民税・固定資産税など)で14億円の減、市債(市の借金)は10億円の増。

議会では、このように財源が減少し限られた中で、市の事業やそれに対する予算措置が適切であるかなどについて、3月18日、19日、22日の3日間、全議員で構成する予算決算特別委員会を開催し審査しました。

新野球場・新サッカー場の建設は

問 新野球場やサッカー場建設整備に係る令和3年度の予算額はゼロである。場所を選定する中で、1年間停滞するのではなく、少しでも前進できないか。

答 令和3年度の予算額はゼロであるが、総合スポーツエリアの整備の方向性も含め、検討を進めていく。



高齢運転者の安全装置の設置に対する助成の廃止

問 高齢運転者の安全装置の助成制度を終了し、免許返納等を進めるとあるが、現在運転している方の安全対策は重要であり、終了するのは納得できない。また、終了するのであれば、別の対策が必要ではないか。

答 市では、高齢運転者の踏み間違い事故防止を目的にスタートしたが、助成制度の利用が少ないこと、新車の自動ブレーキ搭載が義務化されること、財源の一部である県補助がなくなることなどを踏まえ補助を終了する。なお、国の助成制度は継続するので周知に努める。



防犯カメラ設置に対する市の助成の停止

問 新年度予算はゼロ。令和2年度はどの程度利用されたか。また、県による補助制度の新設とあるが内容は。

答 令和2年度は2件の利用があった。県の制度は市が行ってきた補助制度より対象者も広く、上限額も、市20万円に対し、県は50万円であるなど適用範囲が広いと、今年度の予算付けは見送り、県の補助制度の活用を促進することとした。

